

サンネット物流（山部雅春社長）は、石油化学製品の東北向け共同配送で、取り扱い貨物の種類と量を拡大している。これまで主要荷物が三井化学系企業など7社の樹脂製品だったが、新たにDICの塗料製品と住友化学の樹脂製品の取り扱いを開始。荷主及び取扱品目の幅が広がったことで、今後の更なる貨物獲得につなげるとともに、共同倉庫といった新たな取り組みの可能性についても検討していく。

サンネット物流では、GPS（全球測位システム）を活用したリアルタイム商品管理システムと共同配送

## サンネット物流

# 共配の取扱品目拡大

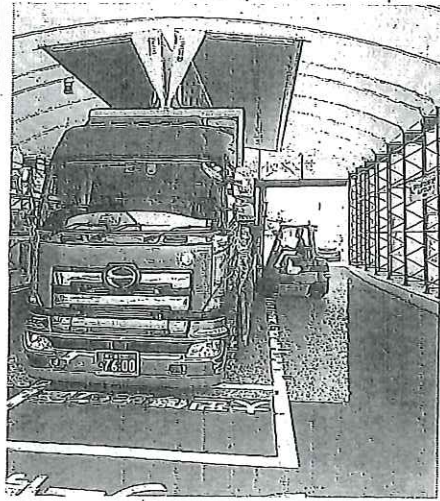
を組み合わせた独自システムを構築・活用し、東北向けの共同配送を展開。本社併設で集荷設備を設け、市

葉発東北行きをミルクランで集荷して共同配送を行っている。

東北の各県に設けた集約拠点のストックポイント

ドライバーの拘束時間などを考慮して、ドライバー用のアパートを用意するなど法令順守に努めている。

新たに受託したDICは同社の物流を手掛ける大手3PL（サードパーティー・ロジスティクス）事業者から業務を請け負い、東北向け共同配送では初めての液物の取り扱いで、2019年9月から配送を開始した。また、住友化学は物流を手掛けるグループ会社から請け負い、20年5月から取り扱いを始めた。これに



（SP）に配送した後、SPを中心に100km圏内の各納品先へ配送。東北向けの便は毎営業日で稼働している。また、

## 東北むけ 塗料や樹脂

山部社長は「現在は荷姿が同じような製品であることが救いだが、積載効率を上げるためには車両の仕様などを工夫しなければならぬ。配車マンの腕の見せ所でもある」と強調。続けて、「塗料（液体）の取り扱いが始まったように、他の品物も取り込んでいきたい。また、自社倉庫に各社の在庫を置いて、オーダーを受けたら積み合わせて配送するような、共同倉庫の可能性についても検討したい」としている。

（井内亨）